

コミュニティ・スクールと地域学 校協働活動を一つの取り組みとして

「学校を核とした」地域づくりが目標

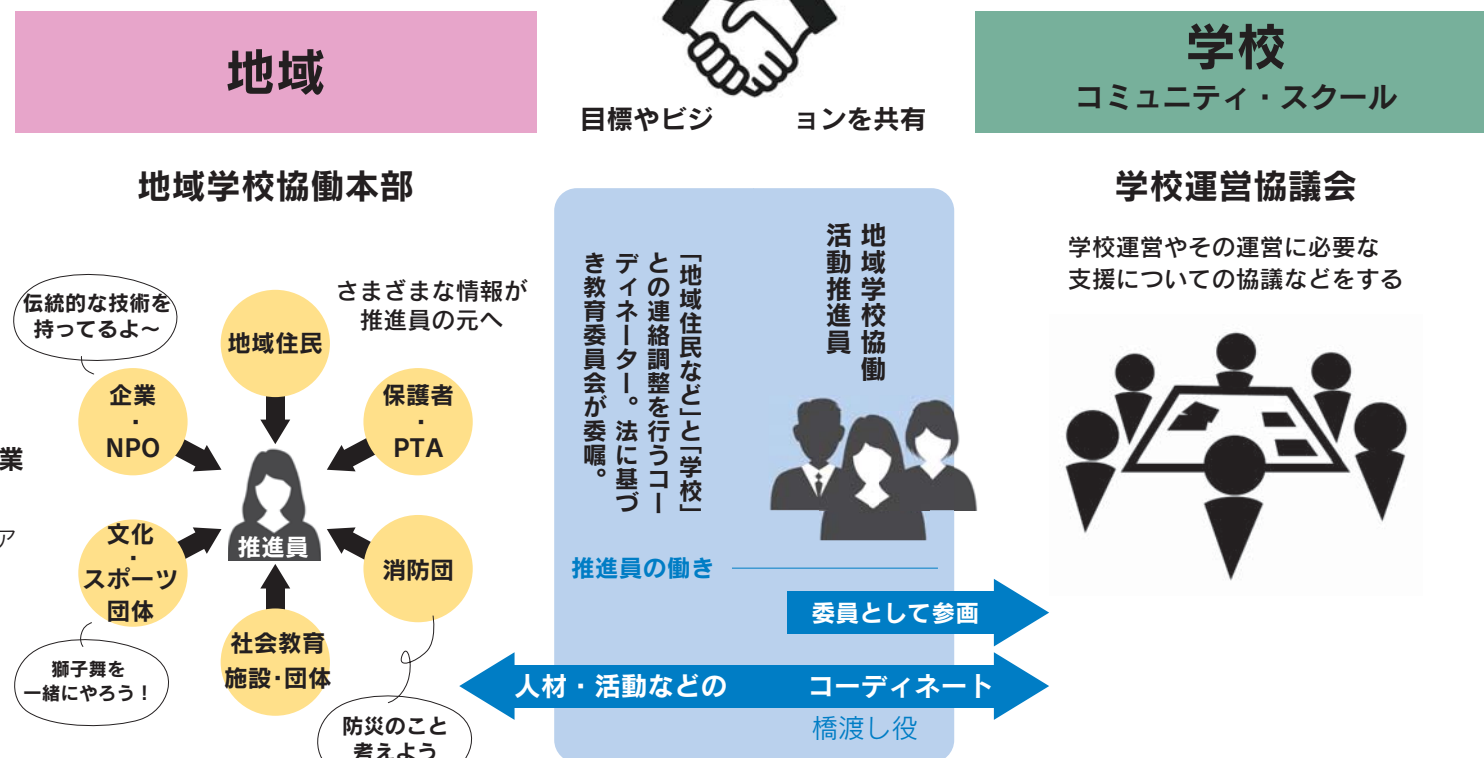
地域学校協働活動

地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関の幅広い地域住民などが参画し、地域全体で「学校を核とした地域づくり」を目指す「地域学校協働活動」に平成19年度から取り組んでいます。



推進員を活用した主な事業

- 全学年 登下校見守り
- 1年生 丸付けボランティア
- 2年生 町探検
- 3年生 習字指導
- 4年生 職場体験
- 5年生 米作り
- 6年生 戦争体験講話
- 中学生 職場体験事前準備



「地域とともにある」学校づくりが目標

コミュニティ・スクール

学校と保護者や地域の皆さんの知恵を学校運営に反映させ「地域とともにある学校づくり」を進める「コミュニティ・スクール」。

法律に基づき教育委員会により任命された委員が一定の権限を持つ合議制の学校運営協議会を各学校に設置し、学校の運営と必要な支援について協議します。

学校運営協議会と地域学校協働本部は、それぞれがもつ役割を十分に機能させ、一体的に推進することで、相乗効果を発揮し、学校運営の改善と地域づくりに資する活動が一層進んでいくことが期待されます。

推進員さんは、依頼したらすぐに動いてくれてとても頼もしい存在です。皆さん、人柄が良く、何でも頼める関係性ができました。昨年度は学習ボランティアや冬野菜の育て方、水泳ボランティアなどで地域と学校をつないでいただきました。地域の方々が来てくれると子どもたちの意欲が変わります。また、専門性があり、教師も学ぶことができました。

地域の方々が温かく見守ってくれることで、子どもたちもコミュニケーション能力が上がったように思います。

「コロナ禍ですが、学校での子どもたちの様子が分かってうれし」と地域のボランティアの意欲も高まっています。とても良い成果があったので、この取り組みをさらにパワーアップさせたいと思っています。

とても良い成果
取り組みを強化します



青海小学校
河野 満理 校長



豊野ひまわり園実行委員会の里永光司さんの講話。「地震後の豊野を元気にしたい。豊野の良い所をアピールしよう。」という目標を地域と学校で共有しました。児童は実行委員会のメンバーや保護者と種まきを行い、メッセージカードやポスターを作成。ラジオでの呼び掛けも一生懸命に頑張り、収穫したヒマワリの一部は大切な人にプレゼントしました。



地域全体を巻き込んだ活動が始まっています

子どもたちの心に「ふるさと」をつくらう



甲斐 高子 推進員
本田 尋子 推進員

桑原 千春 推進員

西本 歩美 推進員

私たち推進員は地域の人たちとコミュニケーションをとり、学校と地域をつないでいます。最近の子どもたちは実際の体験が少ない。さらに体験の少ない保護者や教員が多くなる中、多分野で活躍する地域の人たちが体験をさせてくれる。この経験は子どもたちにとって一生の宝物です。子どもたちが目を輝かせ活動に取り組む姿を見ると、やってよかったという達成感があり、地域の人たちや子どもたちから心からの「ありがとう」の言葉に「本当にやりがいがあるだな」と思える日々を送っています。

地域の宝を輝かせるため
全力バックアップ

コロナ禍でもあり、地域と連携する活動が点になっていきます。点をつなげて線になり、最終的に面にしていくことで、学校のみならず地域の活性化にもつながります。地域の方々の熱心な関わりは、保護者の意識も変えていくと思います。地域と保護者のつながりが、子どもたちを育てていきます。

地域の人や保護者にも、運動会や学習発表会など、練習し学んだ成果のようなできあがったものを見るだけでなく、その途中経過や体験している子どもたちの姿を見てほしいのです。「地域と共にある学校」と「学校を核とした地域づくり」は一体。今やっていることを整理し、何ができるのか創意工夫し磨き上げていきたいです。

この地域だからこそできることを再認識し磨き上げていきたい



豊野小・中学校
廣瀬 武史 校長

※学校長の肩書は3月末時点のものです。